

平成 2 2 年度

市小・中連携研修会（松元中学校グループ）のまとめ

1 研究主題

豊かな人間性を育み、確かな学力、健康・体力を身につけさせるための小・中連携はいかにあるべきか。

2 日時 平成 2 2 年 6 月 2 日（水） 1 4 : 1 5 ~ 1 6 : 4 5

3 場所 鹿児島市立石谷小学校

4 日程

14:00	14:15	15:00	15:10	15:55	16:00	16:45
受付	授業参観	移動	分科会	移動	全体会	

5 分科会・全体会協議題

	協議題名		会場
分科会	下学年	確かな学力を身につける 学習指導 はどうあればよいか。 ① 基礎学力の向上を図るための指導方法の工夫 (ICT 機器活用) や改善	1 年 1 組
	上学年	② 小・中連携した中 1 ギャップ解消対策 ③ 家庭との連携のあり方	1 年 2 組
全体会	豊かな人間性を育む 生徒指導 はどうあればよいか。 ① 中 1 ギャップ調査 (実態調査) ② 小・中連携した中 1 ギャップ解消対策 ③ 豊かな人間性を育む生徒指導のあり方		体育館

6 分科会・全体会の進め方（進行・記録：石谷小学校、取組報告：石谷小学校）

分科会 (15:10 ~ 15:55)		全体会 (16:00 ~ 16:45)	
1 開会のことば		1 開会のことば	
2 係紹介		2 係紹介	
3 協議		3 協議	
(1) 授業者反省、質疑応答	1 3 分	(1) 中 1 ギャップ調査報告	8 分
(2) 会場校取組報告	8 分	(2) 会場校取組報告	1 3 分
(3) 意見交換	1 7 分	(3) 意見交換	1 7 分
(4) 指導助言	5 分	4 会場校長あいさつ	5 分
4 閉会のことば		5 閉会のことば	

7 分科会の係（進行・記録：石谷小学校、取組報告：石谷小学校）

	司会者		進行		記録		指導助言	
	氏名	所属	氏名	所属	氏名	所属	氏名	所属
下学年	上松 みゆき	松元小	石山 孝雄	石谷小	向原美南子	石谷小	大坪 哲教頭	松元中
上学年	松下 寛正	松元中	北野誠一郎	石谷小	塩崎 洋平	石谷小	田村修司教頭	鷺小

8 授業参観

学年・学級	指導者名	教科	単元名	場所
2年1組	愛甲 絵理	算数	たし算のひっ算（たし算のきまり）	2-1
	指導のポイント	数についての感覚を豊かにする操作活動		
2年2組	福永 慶子	国語	かんさつ名人になろう	2-2
	指導のポイント	「かんさつのしかた」の視点ごとにまとめて書く活動		
3年1組	松元 基子	国語	くわしくする言葉	3-1
	指導のポイント	自分の思いを文として表現する喜びを味わわせる活動		
4年1組	児玉 裕紀	国語	新聞記者になろう	4-1
	指導のポイント	P 39「たいせつに」をもとに取材活動で大切なことを確かめる。		
5年1組	塩崎 洋平	体育	マット運動	体育館
	指導のポイント	個に応じた指導の工夫		
6年1組	北野誠一郎	理科	動物のからだのはたらき	理科室
	指導のポイント	I C T機器の理科の授業での活用の在り方		
特別支援学級	石山 孝雄	国語	4年一音読・漢字の練習	仲良しルーム
	指導のポイント	個に応じた指導・モジュール制による集中力の持続		

9 研修会の内容報告

(1) はじめに

本年度は石谷小学校が会場校・事務局を担当し、これまでの松元中学校グループ小・中連携研修会とは異なったやり方、実施内容で研修会を計画した。まず、事前に地区内の小学6年生全員と中学1年生全員に「中1ギャップ」をテーマにアンケートを実施し、中学校入学前の中学校への期待や不安、そして、入学後の1年生の現在の感想を調査した。

次に研修会の実施内容を次のように変更した。

授業参観→分科会（生徒指導と学力向上の2分科会）→分科会報告→指導助言
↓
授業参観 → 授業研究（授業反省と実施校の学力向上の取組発表）→ →全体会（中1ギャップ実態調査結果報告、会場校の生徒指導の取組発表）→ →指導助言

変更の理由は、次のとおりである。

- ① 会場校の実際の授業に基づき具体的に学力向上対策を話し合いたい。
- ② 本地区の児童・生徒にとって何が中1ギャップなのかを把握した上で、小・中

連携を更に深めていきたい。

(2) 授業参観・分科会（授業反省、学力向上対策）

1年を除く全ての学級が、ICT機器活用を視点の一つに入れ、分かる・できる授業に取り組んだ。予め参加者に下・上学年別に授業参観・授業研究の希望をとり、参観者ができるだけ均一にかなるようにした。

授業参観後は、下・上学年毎に授業研究を行った。次に、会場校の学力向上の具体策について代表者が発表を行い、熱心に意見交換がなされた。

下学年では、本校の校内研修で1月に全教職員が発表する「実践発表会」、毎月23日に家庭読書として取り組んでいる「家読（うちどく）」、1年生からの音楽科の専科授業などについて質問があった。分科会のまとめに大坪哲松元中学校教頭から指導助言をいただいた。

上学年では、学力向上対策として取り組んでいる「朝のチャレンジタイム」、「家読（うちどく）」、「実践発表会」などについて質問があった。分科会のまとめに田村修司東昌小学校教頭から指導助言をいただいた。

(3) 全体会（中1ギャップ調査報告、生徒指導報告、意見交換）

① 中1ギャップ調査報告

ア 中1ギャップアンケート結果（小学6年生対象）

まず、中学校生活についての期待や不安について尋ねたところ、大半の6年生は、中学校生活について「とても楽しみ」だと答えている。楽しみな理由は、友達関係、部活動、通学の順である。不安な理由は、勉強、友達関係、先輩との関係、いじめの順である。

次に中学校入学に向けての今の自分を変えていきたいか尋ねたところ、全体の86%が「そう思う」と答えた。

最後に中学校生活について先輩に聞いてみたいことを尋ねたところ、部活動、勉強の話、中学校の行事の順である。

イ 中1ギャップアンケート結果（中学1年生対象）

まず、小学校を卒業するときの中学校生活への気持ちを尋ねたところ、「とても楽しみ・少し楽しみ」が58%、「少し不安・とても不安」が42%であった。

次に実際に中学校に入学してからの気持ちを尋ねたところ、「とても楽しい・少し不安もあるけど楽しい」が99%であった。

中学校の学習について不安やとまどいを尋ねたところ、全体の31%が不安やとまどいがあると答えている。また、その理由を尋ねたところ、学習内容、家庭学習の内容、教科担任制、授業の進め方などを答えている。

中学校生活全般についての不安やとまどいを尋ねたところ、先輩への接し方、勉強の進度、勉強と部活動の両立を挙げている。

最後に中学校に入学して「学校に行きたくないと思ったことはないか」と尋ねたところ、93%はないと答えているが、7%にあたる10名はあると答え

ている。10名のうち1名は、その時に学校を休んだと答えている。

ウ 中1ギャップ解消のための3つの視点

以上のアンケート結果から中1ギャップ解消のための3つの視点を次のように提案した。

- | |
|-------------------------|
| A 思春期の繊細な内面へのきめ細かな対応 |
| B 人間関係づくりの能力（社会的スキル）の育成 |
| C 小・中学校間の緊密な連携体制の確立 |

AとBについては、現在、松元中学校で取り組んでいる諸取組を例に挙げながら中学校が生徒にうまく対応している事例をいくつか紹介した。

Cについては、これまでの小・中連携の現状と今後のあり方について、次のように連携の機会を提案し、新たに実施する行事や連携の充実を強調した。

具体的には、学期1回は連携の機会を持ち、校長レベル、教頭レベル、旧担任と現担任レベル、養護教諭レベル、その他様々な職種での連携の機会を大切に、小学校と中学校が一緒になって子どもを育てていく気持ちを持ち、小・中連携を進めていくことである。

⑤ 生徒指導報告「豊かな人間性を育む生徒指導のあり方」

本校の生徒指導主任が、「豊かな人間性を育む生徒指導のあり方」という題名で本校の生徒指導の取組をプレゼンテーションで詳しく発表した。（省略）

(4) おわりに

本年度は、本校が小・中連携部会の事務局となり、松元中グループ小・中連携研修会を進めてきた。小・中連携研修会を手始めに松元地区内の小学校と松元中学校の連携強化を進めてきた。

2学期は、松元中学校が主催する学力向上プランに係る授業公開を実施し、地区内の小学校からも多数の教職員が参加して、研究授業・授業研究に参加した。本校からは養護教諭も参加し、松元中学校の養護教諭と生徒に関する情報交換を行った。

3学期は、2月16日に本校で松元地区小・中連携部会を開催し、本年度の小・中連携部会の活動を振り返り、次年度の事務局、並びに研修会の開催校、研修会の期日、実施内容等について話し合いを行った。本校での試行的な取組の成果や課題が、次年度の研修会の充実、並びに小・中連携の深化につながることを願うところである。

最後になるが、3月28日は小学校の6年担任、生徒指導主任、特別支援教育担当者、養護教諭が松元中学校の学級編成資料を持って、松元中学校に集まる。小学校から中学校への引き継ぎを確かにし、小学校と中学校のつながりを大切にしたい。

平成 2 2 年度 市小・中連携研修会（松元中グループ）アンケート集計結果（全体）

1	時期は適切でしたか。	
	よい 5 2 人	適切でなかった 6 人
2	小・中連携研修会の内容は、授業参観、分科会、全体会でよかったですか。	
	よい 5 0 人	よくなかった 6 人
3	本年度のやり方についてどう思われますか。	
	よい 3 5 人	従来のやり方がよい 1 4 人
	回答なし、どちらとも言えない 8 人	